

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

「ぞうさん」の歌から

「ぞうさん」の歌はご存じのことでしょう。作詞はまど・みちおさんで、昭和23年につくられました。昭和28年に團 伊玖磨さんが作曲し、NHKで放送されたそうです。まど・みちおさんによると、この歌はシンプルで愛らしい童謡であるとともに、差別するものに対する批判であり、また自信と誇りをもてという応援歌でもあったそうです。

1番の「ぞうさん ぞうさん お鼻が長いね」は誰が誰に言っている言葉でしょうか。おそらく森の中で、猿なのかキリンなのか…象以外のいずれかの動物が子象に向かって言っている言葉でしょう。「お鼻が長いね」は「お前の鼻は長くて変だぞ」という意味が込められているようです。いわゆる『いじめの言葉』

です。ところが子象は「そうよ 母さんも長いよ」と返します。けっして「お前だって お尻が赤くて変だぞ」とか「首が長いじゃないか」とは言い返しません。鼻が長いことに誇りをもっているのでしょう。そう言い返された動物は、はっとしたのか、言葉ががらっと変わります。「ぞうさん ぞうさん 誰が好きなの」、すると子象は「あのね 母さんが好きなのよ」と返します。たったこれだけのやり取りの中に、母親への愛情の強さが表現されています。いじめの根源の一つである「自分と違うものを排除しようとする気持ち」よりも、「個性を認め合うことの大切さ」をいつも心にとめておいてほしいものです。



その意味では、金子みすずさんの作品も、同じことが言えます。

「私と小鳥と鈴と」

私が手を広げても、お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、地面を早く走れない。
私が体を揺すっても、きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、たくさん唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。



学校では毎学期生活アンケートの中で、嫌なことをされたりしたりしていないか聞いています。もし「嫌なことをされている」ということがある場合には、小さいことでも一人一人聞き取りを行い、指導や支援を進める中で解決に向け対応しております。保護者の皆様も気になることがありましたら、担任または生徒指導主任まで、ご連絡ください。なお、本校の「いじめ防止基本方針」につきましては、HPの「学校のひろば」にアップしてありますので、お時間のある時にぜひ目を通してください。

【児童の姿】



2年生の地区探検です。初めて訪れた場所だけでなく、普段見慣れているところや通い慣れている通学路にも、驚きの発見があったかもしれません。



3年生の自転車教室の様子です。事故を起こさないように、しっかりと学んできました。



6年生の市内巡りの様子です。今年の修学旅行の大きな柱の一つが歴史の学びを深めることです。甲斐源氏などについて学び、今後の取組に結び付けていく大切な活動となりました。

千葉県で飲酒運転のトラックが小学生をまき込む痛ましい死傷事故がありました。学校では今後も点検や安全教育等を行っていきます。保護者の皆様の見守りをお願いするとともに、お気づきのことがありましたら情報提供をお願いいたします。